

会 議 録

会議の名称	平成15年度 第10回西東京市環境審議会
開催日時	平成15年11月18日(金) 19時00分から21時20分まで
開催場所	西東京市役所保谷庁舎 東分庁舎地下1階 第1会議室
出席者	【委員】金井委員、清水委員、網野委員、宇都宮委員、松永委員、和田委員、鈴木委員、村松委員、金成委員、中村委員、柏谷委員、矢内会長、西川副会長 【事務局】山本環境保全課長、青柳環境保全課長補佐、横山環境計画係主事、プレック研究所 山内
議題	1. 前回会議録の確認 2. 環境基本計画答申(案)について 3. その他
会議資料の名称	資料1 5.重点プロジェクト 資料2 6.計画の推進 資料3 各基本方針の数値目標例
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点記録
会議内容	
(19時00分開会) ○矢内会長 しばらく、資料に目を通しておいってください。 (19時30分再開) ○矢内会長 本日は、重点、計画の推進、数値目標などを検討したい。 最初に事務局のほうから。 ○青柳環境保全課長補佐 だいぶ計画も形になってまいりました。 本日も臨時で会議を入れさせていただきました。次回にはこれを踏まえて答申を完成したいと考えておりますので、よろしくお願いします。 ○矢内会長 文言等の細かなところではありますが、本日は大きなところで問題がないか確認をした上で、次回に望みたいと思います。 まず、重点プロジェクトについて、前回からかなり整理しました。ステップをなくし、若干大きな柱も変更しています。最後のページに、プロジェクト推進の流れをつけましたので、かなり進め方のイメージがしやすくなったのではないかと思います。 本質的なところで何かご意見ございますか。	

○清水委員

前回からどこが変わったのか示していただいたほうが理解しやすいのですが。

○矢内会長

各プロジェクトそれぞれを1頁に収まるように整理しました。これは、説明文などで繰り返しになっていて、冗長になっていた部分を削ったことによるものです。

重点1については、3つあった柱を2つにまとめました。各プロジェクトの説明図は、ステップを無くしたのに応じて修正しました。

○清水委員

重点4で、まだヒートアイランドが言及されています。ここは、エネルギーの有効利用、省エネ、省資源がテーマになるべきです。西東京市がヒートアイランドの真っ只中にあるというわけではない。

重点6で、西東京市版ISOはよいが、現在ある制度の活用も考えてほしい。環境省の環境活動評価プログラムをひとつの取組として独立させてほしい。環境省でも普及に向けてかなり具体的に動いているようです。

○矢内会長

重点4、重点6ともに、ご意見どおりにするのでよいのではないのでしょうか。

○網野委員

取組の2つ目に、「…ISOを作成し、普及する。」といった表現にすればよいのではないか。

○鈴木委員

重点1で歩道整備条例の部分がなくなっているが、必要ではないのだろうか。交通マスタープランがどういうものを指しているのかがわかりにくい。

トラスト制度については、緑地の保全に向けた市民の意思を表すという意味でよい取組と考えます。市で取り組めば、東京都への働きかけにもつながるので、入れておいてほしい。

教育委員会、学校と協力して環境学習を、学校教育と社会教育の両面から進めていくというような文言を、9頁あたりに入れてほしい。

○矢内会長

マスタープランというのは、「交通体系のあり方」という意味です。

○網野委員

「交通体系のあり方」といった鍵カッコを付して表現した方が良いのでは。

○矢内会長

キーワードとして出すことにします。

歩道整備条例を重点プロジェクトとして出すかということですが、どうでしょうか。

トラストについては、前回も入れていこうと言う結論になっている。3頁に入れるか

どうか。どのくらいのスパンで制度を考えるかが問題ですが。

○鈴木委員

10年の計画期間内での取組のアイディアとして示しておくことには価値があると考えます。相続になった樹林や東大農場などが対象となるのではないかと。

○矢内会長

「緑のトラスト制度の発足に向けて、…」というような表現も入れたい。検討するというよりは、もう少し積極的な姿勢が出るような書き方としたい。

○柏谷委員

環境教育については、重視するというニュアンスが入っていればよいのではないかと。

○清水委員

既に5頁で、学習の要素が入っていますが。

○矢内会長

ごみの資源化など、全体的に教育の要素を入れていくというのでいいのではないのでしょうか。

○鈴木委員

はっきりと「教育委員会」の取組を打ち出しておくべきと考えます。

○網野委員

環境教育に関する項目を、重点8の中で一つ打ち出したほうが、姿勢が明確に出せるのではないのでしょうか。

○村松委員

重点8は、タイトルと取り組み内容がずれているように感じます。

○宇都宮委員

重点4で小中学校での教育が入っている。その他にも環境教育に関する取り組みがふれられているので、重点の中で出さなくてもよいのではないかと。

○清水委員

重点8は情報発信というタイトルであるが、環境リーダーはこれとは違う取組になる。環境リーダーというより、環境保全の人材を育てるという表現にして、その中に環境リーダーを含んでいるようにすればよいのではないかと。そうすれば、その中に環境学習推進も取り込めるのではないかと。

○金井委員

重点はだいぶよくなったと思う。重点3は、川というより水辺。重点7は「食べられる緑」ではわかりにくいので、「身近で育てて食べられる緑を…」としたほうがよいので

はないか。

計画推進に関しては、協議会が目玉としてよいのだが、体制の枠組みが先に出ているので、住民参加ということが弱くなっている印象を受ける。市民全体が参加する中で環境に関する取組を進めていこうというのを前に出していくべきではないか。

○金成委員

重点５の取組みの中で、ごみ有料化は６年目以降なので、ここでは入らないのではないか。「ごみ半減宣言を打ち出し…」で、「最終的に」はとった方がよい。また、「ごみ半減の方針検討」では弱いような気がする。

重点２で、屋上緑化の推進があったほうがよいのではないか。

重点７で、「公団住宅での取組」は検証するといった段階ではないと思う。公共施設における生ごみ堆肥化の推進といった具体的取組を出していけないものか。

○矢内会長

重点５は、提案どおりとしたい。

屋上緑化に関して、重点に加えるかどうかですが。

○金井委員

緑地確保条例が出されているので、屋上緑化というよりも、敷地内で一定量の緑地を確保するということがよいのではないか。この中に屋上緑化も含まれると解釈できる。

○柏谷委員

最近、屋上緑化が突出して捉えられているくらいがあるので、そのような考えでよいのではないか。

○宇都宮委員

先ほどのヒートアイランドについては、東京都と関連があるので、入っていてもよいのではないか。

○矢内会長

緑地確保条例の中で、屋上緑化も含めるような書き方としたい。

○金井委員

ごみの有料化という言葉は載せなくてもよいのではないか。

○金成委員

環境活動拠点の中に学校も含むと解釈して、重点８で、学校教育を入れ込めないか。また、学校などの公共施設での生ごみ堆肥化を入れられないか。

○矢内会長

堆肥化についても、取組を追加したい。

○金成委員

重点 8 については、「人材」というより「環境リーダー」を増やしていきたいという姿勢を打ち出すことを重視したい。

○ 清水委員

「人材」という言葉にしておけば、リーダーだけでなく学校教育なども広く含むことが出来るのでよいのではないか。リーダーに絞るのも一つの考え方ではあるが。

○ 矢内会長

環境活動の裾野を広げるというのがここの趣旨であるので、「環境リーダーや環境学習をひろげる」というような表現でもよいかもしれない。

○ 宇都宮委員

学校については、2 つ目の拠点として位置付けるほうがよいのではないか。
環境リーダーは市として育成するという強い姿勢を打ち出しているので、このままでよいのではないか。

○ 矢内会長

次に推進体制について検討したい。

○ 金井委員

いろんな制度を取り入れて、市民中心の協働で進めていくという姿勢を示したい。推進協議会を作るのはよいが、その前に、広く市民からの意見を取り入れるということが重要ではないか。

○ 松永委員

重点の中にある「検討会」は、推進協議会の部会ということであれば、市民が自由に積極的にそこに参加していけるような環境を作ればよいのではないか。

○ 網野委員

重点の 1 頁で、推進協議会について詳しく書いているので、でも明確に書いておきたい。

○ 西川副会長

3 頁の図は、推進協議会に市が入っていないので、修正してほしい。

○ 宇都宮委員

3 頁図で環境保全課の位置付けを示せないか。

○ 矢内会長

環境保全課が全ての取組に関わってくるわけではないので、「庁内各課」としている。

○ 網野委員

むしろ環境保全課が前面に出すぎているような気がする。庁内委員会の中に入れてお

く程度がよいのではないかと。4つの組織の内の1つとする必要はないのではないかと。

○ 柏谷委員
同意する。

○ 矢内会長
そのような形で整理したい。

○ 金井委員
4頁で、P D C Aすべてのところで市民・事業者の関与を出すべきではないかと。

○ 清水委員
Aは、市民・事業者は入りにくいのではないかと。予算案作成には当然市民のチェックを受けて行うことになるが、実務的には市が作ることになる。
A c t i o nはA c tの方がいいと思う。

○ 鈴木委員
計画の実行、点検、評価すべてにわたって市民が関与するということを明確にだすべきではないかと。

○ 矢内会長
誤解がないような描き方を工夫したい。

○ 和田委員
P D C Aのプロセスを示すものなので、この図でよいのではないかと。

○ 松永委員
市長が環境白書を作り、審議会を経て公表するという流れになると思うが、誰が白書の作成を行うのか、明確にしてほしい。

○ 青柳環境保全課長補佐
白書は市が作成することとしている。4頁の図は、市の施策の、進行管理の仕組みを示したものである。

○ 矢内会長
これまでの議論を踏まえて、次回には答申案を提示したい。そのときには、文言等の整理も行った形のものとしたい。
次に、目標について検討したい。これは、実現性も含めて事務局から提案していただいたものです。

○ 中村委員
緑被率の目標はよい。公園面積の目標を入れてほしい。現状は公園が少ないため、市民としては、ぜひ入れてほしい。緑の基本計画で目標値を入れてもらえるように働きか

けるのが重要ではないか。農地面積が減るのは仕方ないとして、その代わりどれだけ公園を増やすかということも、市として示すべきではないか。

○青柳環境保全課長補佐

公園面積の現況値は出せるが、将来目標値は、関係課との調整もあり困難かもしれない。緑の基本計画でも目標値を出す予定はないため、環境基本計画で出せるか難しいところ。公園緑地課に確認しておきたい。

○柏谷委員

予算の問題もあるので、なかなか書きにくいところだとは思う。
緑被率についても、実現はなかなか難しいとは思うが。

○山本環境保全課長

民間の公園などもあり、なかなか将来予測が立たないという状況もあるようだ。

○矢内会長

市の公園に限定してもよいので、何らかの数値が出せないか、再考してほしい。

○金井委員

項目によっては、具体的な数値をあげずに、「ごみ半減」くらいの表現でもよいのではないか。

○清水委員

全ての目標を達成できなくてもやむをえない。目標を掲げて、進行管理に使うことが重要と考える。

基本方針1の目標は「100%を維持」というのでは目標としていかなものか。

○金成委員

達成出来ることを前提とせず、努力目標的な数字を出すのでよいのではないか。

○中村委員

環境基準は、達成している状態を維持するというより、達成していないところを達成させるという表現にすべきではないか。

○網野委員

高い目標を掲げるのはよいが、まったく現実性のない数値では意味がない。順調に取り組みが進めば達成できるという程度の数値を出しておくべきだろう。

○鈴木委員

どうやれば達成できるか、具体的に書くべきではないか。

○中村委員

緑被率30%という数値は、かなり年度が古いデータであり推計値ということで正確な

値は出ていない。現状維持くらいの目標にしておいて、来年度に調査すると言うのが現実的ではないか。

○矢内会長

目標についてはもう一度提案したい。合意に至らない場合は、答申には入れないということも考えられます。

○金成委員

ごみの目標はぜひ入れておいてほしい。

リサイクル率の目標値は担当課の努力目標ということだが、プラスチックのリサイクルや生ごみのリサイクルにより、もしかしたら50%以上達成できるかもしれない。目標値は約50%と出来ないものか。

○矢内会長

各課の目標と、審議会の議論をどういう関係で捉えるのか、認識が出来ていないので、この場で数値を提案出来るものか、検討する必要がある。

○柏谷委員

今回の答申の位置付けを確認しておきたい。事前に意見聴取とかを行ったほうがよいのではないか。

○青柳環境保全課長補佐

今回の提示する案は、最終案に近いものを想定するが、そこでの議論を踏まえて、若干修正したうえで、市長に提出したい。12月20日ころを目指している。

○宇都宮委員

答申案を事前送付していただくこととして、会議は5日でよいのではないか。各委員で意見が異なっていることもあるので、個別の意見聴取ではなく、全体で集まらないと議論にならないのではないか。

○清水委員

来年度から環境省で、「エコアクション21」を実施する。これは中小企業向けの簡易版ISOであり、審査費用が20～30万円となっているので紹介する。

○矢内会長

では、次回は12月5日に開催したい。

(21時20分閉会)

以上